

話してくれた方



氏名：Aさん

卒業年度：2021年度

勤務先：自治体の教育センター

現在の仕事内容

自治体の教育センターに所属し、臨床心理士・公認心理師として主に児童・生徒とその保護者の方からの相談をお受けしています。

小学校低学年など児童本人とのカウンセリングでは、教育センターにあるプレイルームでプレイセラピーを行うことも多いです。

また、学校まで行き、学校の相談室で相談をお受けすることもあります。

学校に行った際には、日常での生徒・児童の困り感をとらえるため、休み時間や授業中の様子などを見て回っています。

仕事のやりがいや大変なところ

困り感を持った児童・生徒やその保護者の方が、まず最初の入り口として相談を行う場となることが多いので、その困り感を受け止めつつ適切な支援先へとつなげることが大変でもあり、やりがいにもつながっていると思います。

まだまだ力不足であるため、自己研鑽を行ったり、先輩にご助言をいただきながらではありますが、その児童・生徒にとって必要な支援先へと繋がられ、困り感が軽減した際には、安心しつつとても嬉しく感じます。

大学への志望理由、入学して学んだこと

もともと心理学に興味があったことと当時営業職を目指していたので就職してからでも強みとなる学問なのではないかと思い、社会心理学に興味を持っていました。

一方で、臨床心理士・公認心理師という資格にも興味があった為、社会心理学と臨床心理学のどちらも学べるという本専攻に魅力を感じていました。

また、OCの進学相談会に参加した際の先生方のアドバイスや対応が非常に丁寧であったことも大きかったです。

入学してからは、授業の中でグループワークが多いため学問的な学びだけではなく、

他者と協力し課題を達成する力というのを学べたように感じます。

あなたが感じる社会・臨床心理学専攻の特徴

入学してから心理学を理解するために必要な知識を丁寧 to 学ばせてくれるところが特徴であると思います。

1・2年生では社会心理学をお題にしつつ実験法や統計法の基礎について、

3・4年生からは、心理検査やカウンセリングについてなどの臨床心理学のほか、幅広く興味のある心理学の分野について学べたように感じます。

また、先生方との距離が近いため、わからないことや知りたいことがあった際には、社会心理学・臨床心理学どちらの専門の先生にもゼミの所属などを問わず、意見をお聞き出来るのも特徴の一つかと思います。

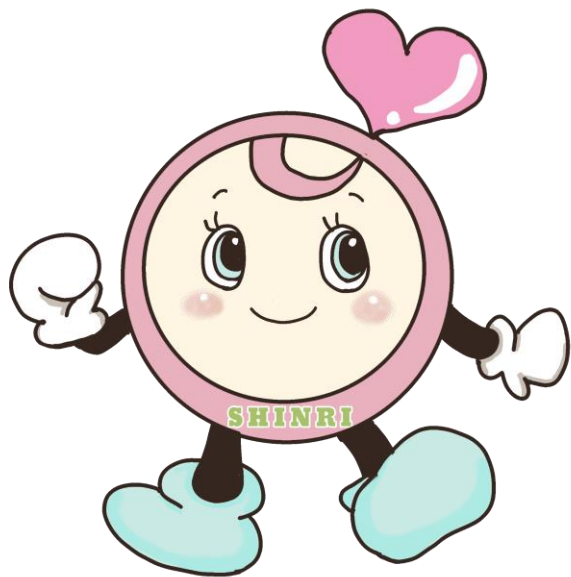
受験生の皆さんへ

自分のペースでしっかりと学べる専攻であるというように感じています。先生方は親身に話を聞き、最適な方法を一緒に考えて下さる方が多いため、興味があることを見つけるのにも、深めるのにも必要な環境は整っているように思います。

また、授業ではグループワークが多いですが、普段はそれぞれ自由に過ごしている人が多い印象なので、自分に合った過ごし方ができるかと思います。

まずはOCなどで専攻の雰囲気を感じてみてください。

話してくれた方



氏名：徳田早紀子 さん

卒業年度：2020年度

勤務先：地方公務員

現在の仕事内容

地域福祉に関する部署にいます。具体的には日々の見守り活動や地域の相談役として活躍してくださる民生委員の事務局運営や人権教室などの人権啓発活動をとおり、「人権の大切さ」を教えてください人権擁護委員のサポートなどをしてしています。

民生委員、人権擁護委員は基本的にはその地域に住む市民の方から任命されます。そのため、言い換えれば今の仕事は地域住民と協力しながら誰もが安心して暮らせる町づくりをする仕事だと思っています。

市役所、と聞くと何となく「事務仕事が多そう、座ってる時間が長そう」というイメージも強いかと思いますが、実際は地域の方の協力を得ながら、地域の方と近い距離で接する仕事も多くあります。

仕事のやりがいや大変なところ

「直接意見が届くこと」がやりがいであり、大変なところではあります。市役所は現場と距離が近いので「ありがとう」や「助かったよ」と直接感謝の気持ちも伝えていただく事も多くあります。嬉しい言葉を聞けるのはやはりやりがいに感じますし、誰かの生活の直接の手助けになることが多いのは、市役所ならではの魅力だと思います。

一方で「こっちの方が良かった」「これでは満足なサービス提供ではないのではないか」など厳しい意見にも直接対応することも多いのが正直なところではあります。

色々な方が生活していて、様々な価値観がある中での仕事ですので、全員に納得してもらうのは難しいものです。

粘り強く、一番最適な方法を模索していくことを大切にしていきたいと強く感じています。

大学への志望理由、入学して学んだこと

恥ずかしながら「心理学、なんか面白そう！」という志望理由だったと思います。そんな安直な理由でしたが、実際に心理学はおもしろいです。心理学を4年間学び感じた事は「心理学を学ぶ事は自分の生活を明るく楽しいものにすることに繋がる」ということです。

例えば「自己効力感」について。

「自己効力感」とはとても簡単に言ってしまえば「自信」です。そして「自己効力感」が高いと目標達成をしやすい、とされています。では、その「自己効力感」を高めるにはどうすれば良いのか――、とこのような具合で授業や文献で知識を得ていくのですが何となく、「自己効力感を高めたら良いことありそう！」と思っていただけたでしょうか？このように、心理学には今後の自分の生活に役にたったり、物事の見方が少し変わったりするヒントが多いと感じます。少しでも興味があったらぜひ心理学部も進学先の候補の一つにしてください。

あなたが感じる社会・臨床心理学専攻の特徴

社会人でも役にたつ知識を身につけられることが大きな特徴だと思います。

社会人になって特に①傾聴力 ②Excelについて学生時代に学べたのは大きいと感じました。

①傾聴力について

どの仕事にも共通するのではないかと思います。仕事の第一歩は「相手の話をちゃんと聞き、相手が何を望んでいるのか正確に把握すること」だと思います。

そんな時に大切な力となるのが傾聴力です。傾聴力は一朝一夕に身につくものではないです。しかし、社会・臨床心理学専攻では授業の一環で傾聴について学びます。傾聴の授業は社会・臨床心理学専攻の魅力の1つだと思います。

②Excelについて

こちらも授業の一環で学びますが、Excel関数は社会人になってかなりの頻度で使います。私が学生の頃は2年生の時にExcel関数の授業があったと記憶していますが、その時学んだ知識が社会人生活の中で大きく役立っています。

Excel関数について深く学べるのも社会・臨床心理学専攻ならではの魅力だと思います。

受験生の皆さんへ

大学生になったら、たくさん勉強して、たくさんバイトして、たくさん遊んで、、、と色々と想像が膨らむと思います。そんな楽しい想像をしつつ、受験勉強を頑張ってください。また、「大学生になったら」という先の話もいいですが、今の生活も十分に楽しんでください。同い年の子とずっと同じ空間にいる、というのは高校生までです。今しか味わえない楽しさもたくさんあるので、普段の学校生活も悔いの残らないように過ごしてください。大学生になった時に「自分が納得できる受験生活だった！」と自信を持って言えるような受験ができますように、とお祈りしています。